

選手には「もう表彰台 しかない」と言っています



阿川 佐和子の
この人に会いたい

532回

阿川 アテネオリンピックに出場決定、おめでとございます。

山本 ありがとうございます。ご心配をかけてばかりで。準備の段階では六戦全勝でいけるかなと思っていましたけど、体調を崩したりして。やっぱり予選は難しいですね。

阿川 予想外の展開でしたか。

山本 ええ。最初のラウンドでUAEが二戦二勝して日本の上に抜けたから、三戦目の対UAEがどうしても負けられない戦いになってしまってます。その上、直前に食中毒みたいなものにかかって、コンディションが最悪だったので。

阿川 選手もスタッフもみんなお腹を壊して。UAE戦はピーピーの状態であって選手もたくさんいたんですか。

山本 元気なのは一割もいませんでしたから、かかっている選手も点滴打って出ました。だから、試合が終わった途端にワースとトイレに駆け込んだ奴も何人かいました。

阿川 よく試合が出来ましたねえ。原因は何だったんですか。

山本 原因は特定できなかったんですけど、何人かの選手は、その状態から体力が回復せず日本ラウンドを戦えない状態になってしまったんです。チームとしても本当にギリギリの状態でしたよ。

阿川 山本監督は？

山本 僕も実はお腹を壊していて、本当は相当きつかったです。でもそれは、大会中は誰も知らなかったと思います。

阿川 えっ、隠してらしたんですか。

山本 もちろん。やはり選手にそういう不安を与えるといけないんで。

阿川 選手にはどういうフォローをなさったんですか。

山本 甘い言葉は全然かけてないですね。「お前たちの夢がかかっているんだからやるしかないよ」と。

阿川 お尻にバンソウコウ貼って出ろって？（笑）

山本 点滴打ってる選手にも「頑張るしかねえぞ。すぐ治せ！ 気持ちだ！」って（笑）。

阿川 日本ラウンドのバーレーン戦は負けてしまったけど、そんな状態でも最終的には一位になって。

山本 こういう大会はいいサッカーをするのではなくて、五輪行きの切符を取るために勝点をしっかり稼ぐことが

試合後衰弱しきった選手を見て、監督はカメラの前で涙を流した。コーチから監督になっても選手からの信頼の厚さは変わらない。まだまだ若い選手の精神面を鍛え、ときには大事にいたわりながら、大人のチームへと育て上げた。日本サッカーの歴史を塗り替えてきた男である。

.....

大事。そういう戦うチームづくりをしてきた成果が出たのかなと思います。

阿川 苦労して戦ったUAE戦直後の記者会見で、監督は目のほかからも水分が出ちゃって（笑）。

山本 情けない話なんですけどね。本当はピッチに立たせちゃいけないようなコンディションの選手もいたんですが、気持ちの張りを切らせないために追い込んで、追い込んで、追い込んでやらせて、それが結果を出して。私がフラッシュ・インタビューを受けていたとき、憔悴ききってポロポロの選手が横に來たのを見たら、よくここまで頑張ったという感激でウツとなったんですよ。

阿川 山本さんが五輪チームの監督になられたのは二年前。

山本 トルシエ監督と一緒にW杯チームを指導してきたのがひと区切りついたときにサッカー協会からお話をいただいた。この仕事が一番自分の力を生かせる場だと思ったんです。ずっと若い世代の育成をやってきて、そのノウハウは日本では人に負けないものがあるんで、自分が溜めてきたものを吐き出せるいいチャンスだと。

阿川 最初にメンバーを集めたときの印象はどうでしたか。

山本 全然わかってない、という感じでした。

阿川 エエーッ!? でもみんな、その世代の選抜抜かれた子たちなんでしょう。

山本 私はその直前までフル代表の大人を通して、世界の怖さ、厳しさ、プレの質の違い、執拗な駆け引き、雰囲気などを見て、世界基準ということ

をずっと肌で感じてきてたんです。そ



サッカー五輪代表監督

山本昌邦

昭和33年静岡県生まれ。国士館大学卒業後ヤマハ発動機サッカー部。平成7年より指導者として各年代別のコーチ、監督を務め、アトランタ、シドニー五輪を経験。日韓W杯では代表コーチ。その後アテネ五輪を目指すU-21の監督に就任。今年3月五輪出場を決めた。HP <http://www.masakuni-yamamoto.com>

れで、当時二十一歳以下の五輪チームの選手を集めてみたら何もかもがすごい子どもに見えて、「こいつら、何もわかってない」と。そんなこと、選手には言いませんよ。だけど、フル代表とのギャップと、これを二年間でオリンピックの表彰台まで持っていくという厳しさをすごく感じましたね。

阿川 何をわかってなかったんですか。山本 みんな「おれはうまい」と思ってたでしょうし、確かにうまいんですよ。練習見たら（拍手しながら）素晴らしい！ だけど、W杯とか五輪はうまいだけで戦える程度じゃないんですよ。うまいだけの選手はいらない。うまさ+戦える強い選手じゃないと。阿川 ほおー。

山本 それで、「今までやってきたようなことじゃ世界には近づけねえぞ」ということを認識させるためには、口で言ってもダメだから、一回、全部壊して、まったく力がないことをわからせたほうがいいなと思って。阿川 どうなさったんですか。山本 ジュビロ磐田のベストメンバーと試合をしてもらったら、0-7で負けました（笑）。阿川 監督もまさか7点も取られるとは思ってなかった？

山本 予想は0-3ぐらいだったんで、相当アセリました（笑）。そこまですらなくていいだろうっていうくらいいわれて、何もできなかった。阿川 噂がボブ・サップと戦ったみたいな感じですかね。山本 アッハッハッハ。狙いとしてはよかったんだけど、選手は相当暗かったですね。僕も暗くなりました（笑）。でも、そのお陰で、一カ月後に始まったアジア大会で準優勝した。その一戦一戦で強くなっていって、そこから今のチームづくりが始まったんですね。

阿川 年齢の差もあるでしょうけど、フル代表とそんなに力が違いましたか。山本 今のフル代表の選手はほとんどが二十歳以下や十七歳以下の世界大会でいい成績を残しているんです。たとえば中田英寿で言えば両方ともベスト8。オリンピックも二回行って、アトランタではブラジルに勝っているし、シドニーはベスト8。小野伸二とか高原直泰、稲本潤一の世代は二十歳以下の世界大会で準優勝、世界第二位です。そういう中で育ってきた。阿川 そんなにすごかったの？



阿川 それ、わかりやすいですね(笑)。
山本 だから、アテネオリンピックは彼らが経験の差を取り戻すチャンスだと思っています。これを取り返して上の世代を追い抜かないと、彼らはドイツのW杯(二〇〇六年)でピッチに立つことができないですから。

阿川 その前に、オリンピックの最終メンバーに選ばれるための争いもあるんですね。

山本 僕は本番の前日まで、ピッチに立てるかという競争があると思っています。メダルよりも、一日一日の重みを感じて経験して、さらに競争して伸びていくことに価値がある。金メダルを取れたすこさは、その過程を踏んで、そこに辿り着いたという経験の価値。メダルには何の価値もないですよ。あれ、メッキです(笑)。
阿川 じゃ、監督はたとえ銅メダルだったとしても、その過程がすごく充実したものであればいいと?
山本 はい。選手の価値はそこで終わるわけじゃなくて、まだまだ先がある。アテネ経由でドイツへ行けと言っ

てるわけですから。今のメンバーでアテネでピッチに立たない奴も、ドイツのピッチに立てるかもしれない。でも、それは厳しい競争にチャレンジし

トルシエ監督の下ではいつも「ふざけんなよ」と思っていた

阿川 平山(相太)君が話題の的でしたけど、いつ頃から目をつけていらしたんですか。

山本 前から知ってることは知ってましたけど、実際にこれはイケるなと感じたのは、昨年の十一月に日本がベスト8まで行った二十歳以下の世界大会でのプレーを見て。で、一月からの合宿に呼んだんです。一月の高校選手権で華々しく点を取って得点王になりましたけど、あのときは「これぐらいやって普通だろうな」と思っていました。
阿川 彼のどこが魅力ですか。

山本 あの高さとポストプレーヤーとしての能力は非常に評価しています。
阿川 平山君の世代が五輪チームに入

ってきた過程があるから引き上げられるわけです。それこそが、日本サッカー界全体のレベルアップに非常に価値があることだと思うんです。



ってチームのムードは……?

山本 最初は食事会場なんかでも、上の世代と下のワールドユースに出た連中がどうしても分かれて座っちゃうんですね。だから、テーブルを三つにして、二つに分かれられないようにしたり、僕なんかが間に入って「同じグループで話したって成長ないよ」とか「お前、あっちの席に座れ」とか言って、どんどん混ぜたりしましたね。

阿川 そういう工夫もなさるんだ。

山本 練習のときだけじゃなくて、そういうときにコミュニケーションを図ってわかり合わなきゃいけない。だから、食事会場では新聞や雑誌を読んじやいけないし、携帯電話も持って来ちゃいけないことに決めてます。

阿川 ピシッと厳しく。

山本 それから、食事のときにリラックスするのは大事な要素だから、できる限り外が見える部屋を用意しろとスタッフに言ってるんです。

阿川 外が見えると違うんですか。

山本 木の緑や、遠目に人が歩くところが見えるほうが、刺激になって話題

になったりするからいいですね。部屋とテーブルの配置は大事です。

阿川 他に気をつけていることは?

山本 練習は午前中に一時間、夕方も一時間であまり長くないんです。午前中に一時間トレーニングして、体に負荷がかかったところでしっかりご飯食べて、二、三時間昼寝すると、その間に成長ホルモンが出て栄養が体に行き渡る。そうすると、体が回復してエネルギーが充満して、午後のパフォーマンスがすっごい上がるんです。そこで練習するとまた負荷がかかって、よりいいリバウンドをする。それを繰り返して、能力を高めていくんです。

阿川 監督の仕事って選手交代を叫ぶとか、システムをどうするかということだけかと思っていいたら、山本さんは栄養学や身体科学にも詳しくてどんな取り入れていらしたとか。

山本 移動の飛行機でも窓側の席で窓ガラスに頭をつけて寝ていると、外は氷点下50℃の世界ですからどんどん熱を奪われる。風邪をひくのはだいたいこのパターン。だから、フードがついたスエットを配るとか。あと首から熱が逃げちゃうんでマフラーをしろとか。

阿川 そんな細かいところまで教えてらしたんですか!?

山本 そんなわずかな差も考える意識の高さで、勝利を手に行けるかどうかも変わってくる。そういうノウハウを積み上げながら世界に近づいてきたんです。サッカーに限らず、全体のサイク



阿川佐和子の この人に会いたい

は、トルシエ監督の下にいらしたからですか。

山本 うーん、まあ、いろんな勉強をしましたね。苦労は山ほどありましたけど、いいこともたくさんありました。

コでしたから、こういう指導法はしないだろうなとは思いましたね。トルシエ監督のときは練習はほとんどクロージドで、基本的にメディアはシャットアウトだったんです。だから、取材のカメラがないときはけっこう……。

阿川 いいことは？

阿川 戸塚ヨットスクール状態？

山本 いいことは、フランス代表とかスペイン代表とかFIFAランキングでトップ10に入るような国と幾つも試合やっているんですよ。世界に近づくためにはそういうチームと試合する経験が必要だと言って。

山本 ええ。「俺、殴り返してやる」なんて選手もいましたからね。

阿川 トルシエ監督も「仕返しされるかもしれない」って怯えてたとか。

阿川 トルシエ監督も「仕返しされるかもしれない」って怯えてたとか。

阿川 トルシエ監督の意欲で「やるんだッ、やるんだッ、やるんだッ！」って？

山本 やっちゃってから、すごい反省して「あいつは俺を殴り返さないか」って心配してたこともありましたね。

山本 「フランス代表とやろう！」って試合して、0-5で負けて相当ヘコんでました。

「日本はついに、三百年前まで、みんな腹切って敵討ちしてたからなあ。死ぬときはそうするかもしれないねえ」って言ったら、「ホントカァ？」って。

阿川 アハハハハハ。

阿川 可愛いとも言える(笑)。監督と選手の軋轢(けんりく)が大きくなると、成績にも影響するんじゃないかという心配はなかったんですか。

阿川 イジメられて辛い思いをした選手が相当いましたよね。

山本 いや、僕はあんまりなかったです。トルシエ監督もW杯で日本の代表チームを勝たせたんですよ。自分が次の仕事でいいオフアを勝ち取るためにも。勝たなきゃいけないというところは一致していて、どういう方法で勝つかは監督が決めること。僕の仕事はそれをできるだけフォローすることですよ。

山本 難しい質問ですわね、タイプが全然違いますから。選手はもうポコポコで……。

阿川 山本さんが頭に来て「もう家に帰りたい」と思ったことは……。

阿川 トルシエ監督のもとにいて、俺が監督になったら、これだけはやらな

山本 ありました。もういつも「ふざ

などと思って。

阿川 別の彼女を紹介するとか？

山本 いやいやいや(笑)。

阿川 選手を叱ったり諫めたりするのはあるんですか。

山本 みんな代表に選出されるような選手なんでプライドは一樣に高いです

から、褒めることは人の前でしても、怒ったり貶めたりは個人的にやらないといけない。信頼関係を失うことになり

ますから。チームを引き締めるためにみんなの前で怒るとしたら、先に本人に言いますね、「お前、今日は怒る

から覚悟しとけ」って。周りはそんなこと知らないからビツとなる。

阿川 本人は覚悟できてる。

山本 で、終わったら、「まあ、気にすんな」と。

阿川 わあ、細かいフォロー！

山本 ハハハ。これぐらいのことはやらないとね。

阿川 そういうノウハウを獲得したの

ルの中でどう鍛えるかプランしないと、いい選手は育たないんですよ。

阿川 ちょっと暗くなってる選手に何が問題なのか追及するのではなくて、「どうよ？」って軽く肩を叩いたりなさるんですって？

山本 日常会話の中から、その選手のコンディションとか考えを探ることが大事だと思うんです。そのために、優秀なスタッフを集めてある。トレーナーでも怪我の治療しきれない二流じゃ困る。「心の軛(くわ)まで診てね」と。

阿川 ほおっ。

山本 トレーナールームでマッサージしてもらってるときって、選手はどんな本音を出すんですよ。「実はさあ、彼女にフラれちゃって」とか。そういう報告も受けるんです。

阿川 受けて、どうなさるんですか。

山本 それで調子が悪いんであれば、サッカーのことでガミガミ言っても、たぶん受け入れる余裕がないんだらう

日本代表監督は、自分の経験が 一番発揮できる場かなと思う



けんなよーと思っていたけど、僕は彼のために仕事をしているのではなくて、日本代表がW杯で初勝利するという夢を実現するために働いているんだ

し、何万人ものサポーターが応援してくれていると思うと、監督が言ってることなんか全然。「また怒ってるぞ」とみたいな感じ(笑)。

阿川 今となっては懐かしいですか。

山本 懐かしいですね、あのピリピリした刺激が(笑)。

阿川 今にして思うと、すぐ感情的になるトルシエ監督についたことは、日本代表が強くなるために大変貴重な体験だったんじゃないかと。

山本 いや、無駄な経験ってないと思うんですよ。いいことも悪いことも、その後どう生かすかによって価値はすごい変わってくると思うので。ワールドユースやシドニーオリンピックでベスト8だったチームや選手が、W杯のベスト16で満足するわけない。そこまでは行けなかった悔いも非常にあると思う。でも、そういう歴史を一つずつ積み上げて行かないと、なかなか上には上がれないんです。

阿川 なるほど。

山本 トルシエ監督とは今はすごいフレンドリーな関係です。今回の五輪予選の日本の相手は中東勢だったでしょう。彼は、今、カタール代表の監督なのでいろんな情報をくれたり、ビデオ撮ってくれと言えば送ってくれます。

阿川 あら、いいところもあるのね。

山本 いい人ですよ。一緒に仕事すると、けっこうキツイですけど。

阿川 最初は何もわかってなかった選手たちは二年経っていかですか。

山本 それはもうよくなっていますよ。当時、Jリーグでレギュラーだった選手は数えるほどしかいなかったのが、今はほとんどがレギュラーですし。

阿川 アトランタ、シドニー、アテネと三つの五輪チームを見てらして、今のチームへの期待はどうですか。

山本 選手には最初から「シドニーで先輩たちがベスト8で涙を飲んでいるわけだから、そのメンバーを追い越してドイツ(W杯)のピッチに立とう」と思ったら、もう表彰台しかない」と言っていますし、ミーティングルームには常に貼ってあります、「アテネの表彰台が目標だ」と。

阿川 おお、う。あと、オーバーエイジの問題ですけど、シドニーオリンピックのとき、本番直前に怪我をして出られなかった小野伸二選手が「僕も出たい」と言っているようですが……。

山本 出たい人はたくさんいると思いますけど、「呼ばれたら出ますよ」というレベルであればたいした力にならないから、呼ぶ意味がない。二十三歳以下の選手たちは「どうしても出たい!」という気持ちでやってくるんだから、それ以上のモチベーションを持ってもらわないとチームの雰囲気に入ってくれないと思っています。

阿川 じゃ、アピールしてる選手をチエックして……。

山本 アハハハハ。まあ、ポジションのバランスとかいろいろ考えていますので……、これ言うど怒られるかな。

阿川 何? 何?

山本 年齢的にも、ドイツに繋がるオーバーエイジを使うという考え方もあると思うので……。

阿川 あ、そうか。五十歳じゃ採用されないってことね(笑)。

山本 アハハハハ。

阿川 今後の話ですが、日本代表監督という仕事には魅力を感じますか。

山本 面白い仕事だとは思っています。自分の経験や蓄積してきたものを一番発揮できる場かなと思う。オリンピックに三回出た指導者もいないし、その意味では、責任というか、それをフィードバックしていく使命感はあります。せっかく日本のサッカーはこの十年で世界に近づいてきたんです。私が見てきたものを是非生かして行きたいなと思います。

阿川 試合中いつもネクタイを締め

て、スーツを着ていらっしやいますね。山本 これから選手を引退して指導者を目指す人にも憧れの仕事として思ってもらいたいです。本当はジャージの方が好きなんですけどね(笑)。戦う集団なんですからきちっと見せないとい。阿川 どんなに暑いところでも? 山本 いや、脱ぐかもしれない(笑)。

一筆御礼

(構成 柴口育子)

今頃は選手スタッフともどもギリシヤの空の下で元氣よく走り回っておられるのでしょうか。本場の芝を踏み、オリンピック出場の実感がさらに高まっているしやることと拝察いたします。出発直前にもかかわらず、お疲れの気配一つ見せずに終始、背筋を伸ばして誠実にリズミカルにお答えくださる監督は、欧州型スポーツマンを絵に描いたようなダンディ・ジェントルマンとお見受けいたしました。選手との信頼関係の構築法、身体科学や精神科学に対するきめ細かい知識など、長年にわたって積み重ねていらしたご経験が、世界に乗り出さんとする選手やスタッフ一人一人の身体と心に貴重な財産として伝承され、確実に蓄えられていくのかと思うとそれだけで素晴らしいと感銘を受けました。表彰台に向かうこのプロセスを夏の本番に向けてますます充実させてください。でも下痢にはご注意ください。特に魚介類に気をつけて。